

チクングニア熱



- ・ アフリカ、東南アジア、南アジアの国々で流行しており、2006年にはインドで約140万人の感染者が報告されています。
- ・ 我が国では、2010年に海外で感染して帰国後に本病と診断された事例(輸入症例)が、インドネシアから3例確認されています。
- ・ 2011年現在7例の輸入症例が報告されています。

○発生地域:

アフリカ、東南アジア(フィリピン、マレーシア、タイ、インドネシア、シンガポールなど)、インド、パキスタン、インド洋島嶼(しょ)国(スリランカやモルディブなど)、マダガスカル。2007年にイタリアで流行。2010年にはフランスでも流行。

○感染経路:

ウイルスを保有したヤブカ類に吸血された際に感染する。

○主な症状:

2～12日(通常4日～8日)の潜伏期ののち、突然の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹。関節痛は急性症状消失後も数か月続くことが多い。

○感染予防:

長袖、長ズボンを着用し、素足でのサンダル履き等は避ける。虫よけローションの使用等によって、屋内のみならず屋外でも蚊に刺されないように注意する。室内の蚊の駆除を心がける。

海外では、動物と距離をとろう。

Please Keep Your Distance

※もっと詳しく知りたい方は

FORTH/厚生労働省検疫所「チクングニア熱」

→<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name32.html>

国立感染症研究所感染症情報センター「チクングニア熱」

→http://idsc.nih.gov/idwr/kansen/k07/k07_19/k07_19.html

国立感染症研究所 ウイルス第一部第2室「チクングニア熱」

→<http://www.nih.gov/vir1/NVL/Aphavirus/Chikungunyahtml.htm>